

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093700013		
法人名	有限会社 福岡医療研究所		
事業所名	グループホーム やさしい時間		
所在地 (電話番号)	〒811-1241 筑紫郡那珂川町後野4-10-5 (電話) 092-952-6563		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(H21年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算 15人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	軽量鉄骨 造り			
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要 (2月23日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はデイサービス併設型のグループホームで、住宅地でありながら山や田園風景が広がった静かな環境に立地している。広い敷地の一角には畑があり、四季折々の野菜を職員と入居者で収穫し、楽しむことができるようになっている。建物は事務所を挟んで二つのユニットが並び、入居者の殆どが日中は開放感のあるリビングでそれぞれのペースでゆっくりと過ごされている。管理者および職員は入居者の身体的・精神的変化を注意深く観察し、入居者の思いを汲み取るよう努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では改善課題が四つ提示されたが、次の三項目 地域密着型サービスを反映した理念、自己評価の取り組み、権利擁護に関する制度の理解については職員の入れ替り等もあり、手をつける時間がなく、改善できなかったようである。今後は改善計画をたて、具体的な改善に取り組まれることを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は一部の職員の意見を取りまとめ管理者が記載したようであるが、個々の職員が自己評価をすることで、地域密着型サービス施設に求められている事や改善しなければならない事項等に気づかされる事も少なくないため、全員での取り組みに期待する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催され、事業所の行事や活動報告、事業所が遭遇している課題等について話し合われている。例えば利用者の「離脱」に対する話し合いにより、派出所やタクシー会社に利用者の写真を置かせてもらう等の対応がとられ、地域のネットワークが築かれつつある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>事業所(ホーム)には家族からの苦情や相談等を収集するための「意見箱」は設置されていない。意見や苦情は職員が直接受ける場合が多く、会議録等から職員間で検討され、対応していることが確認できる。しかし、頻回に来所できない家族や職員に直接言えない家族がいることも想定し、アンケート等で幅広く意見を拾い上げる工夫も期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域や保育園で行われる運動会や春と秋に行われる地域の祭り等に積極的に参加している。また、ホームに園児や学童が訪ね、お遊戯や楽器演奏を披露してくれる等の機会もあり、地域との交流が深まりつつある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」という事業所独自につくり上げられた理念であるが、地域密着型サービスの果たすべき役割が反映された内容とはなっていない。		運営者の熱い想いが込められた理念であることは理解できるが、前回の外部評価でも改善課題として挙げられた項目である。理念を変更することが困難であれば、「方針」を追記して、その中で地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した内容となるように工夫されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のスタッフ会議にて、理念の取り組み状況について確認されている。また、職員の聞き取り調査より理念の内容が理解できている事が確認できる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域や保育園で行われる運動会や春と秋に行われる地域の祭りに積極的に参加している。また、ホームに園児や学童が訪ね、お遊戯や楽器演奏を披露してくれる等の機会もあり、地域との交流が深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は自己評価・外部評価の意義を理解している。しかし、今回の自己評価では一部の職員は関わっていない。前回の外部評価で提示された改善課題については職員の入れ替り等があり、具体的な改善活動の取り組みまでには至っていない。		個々の職員が自己評価に取り組むことで、地域密着型サービス施設に求められていること、改善しなければならない事項等に気づかされる事も少なくない。また、職員の意見を拾い上げる意味においても職員全員で自己評価に臨み、具体的に改善計画をたて、改善課題に取り組まれる事を期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、会議の意義や役割を委員に理解してもらうための運営規則も作成されている。会議では「離設」に対する検討が行われ、その結果、派出所やタクシー会社に写真を置かせてもらう等の対応がとられており、地域のネットワークが築かれつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所(ホーム)内で介護事故が発生したり、家族からの苦情や相談等で対応が困難な場合には市町村に報告・相談している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所(ホーム)には成年後見人制度を活用している入居者もいるが、職員の聞き取り調査からは制度の内容が必ずしも浸透しているとは言えない。		生活相談員が不在の場合に備え、職員がパンフレット等を活用し、利用者・家族に説明できるような体制づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態等については事業所発行の通信(便り)や家族の面会・担当者会議等の際に報告している。遠方またはあまり来られない家族等に対しては、請求書を送る際に通信(便り)等を同封して報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所(ホーム)には家族等からの苦情や相談等を収集するための「意見箱」は設置されていない。意見や苦情は職員が直接受ける場合が多く、会議録等から職員間で検討され、対応していることが確認できる。		頻回に来所できない家族や職員に直接言えない家族等がいることも想定し、アンケート等で幅広く意見を拾い上げる工夫も期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく離職等がある場合は、引継ぎに2週間という期間を設け、利用者へのダメージが最小限となるよう工夫に努めている。また、職員の意見・相談等については施設長、ユニット長、管理者の三者で幅広く対応できる体制を整備している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用要件は性別・資格は問われていないが、仕事が重労働という事もあり、採用年齢は五十代中頃までとしている。無資格であれば、仕事をしながら資格をとることを奨励し、研修の参加については事業所に必要があると思える場合は出張扱いでの参加が可能である。研修の案内は職員に回覧されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ロールプレイを通して、利用者への言葉掛け、対応方法についての学習を行っていることが記録より確認できる。		
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は役職・資格・経験に応じて教育研修が受けられる体制を整備している。また、働きながら教育訓練を受ける機会も確保されている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所はグループホーム協議会に加入している。管理者および職員は協議会主催の研修や文化祭等に参加し、他事業所の意見や取り組みを参考にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに利用者及び家族に見学や通所での体験、そして体験入所等を通して他の入居者と話す機会を設け、他入居者や職員、居住環境に徐々に馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活の中で調理の仕方・料理の味付け等を教えてもらったり、生き方や人生を上手く送るための秘訣など、利用者から学ぶことを大事にし、支え合う関係を築き上げるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らし方の希望や意向は利用者との普段の会話や家族から情報を得、把握するように努めている。また、希望や意向の表出が困難な利用者については極力、表情や仕草から汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には家族・担当者以外の職員も出来る限り出席し、本人の意向や会議での意見・アイデアを反映させた介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎の定期、または随時に行われ、見直し前はスタッフ会議等で話し合われた事項を反映させながら介護計画を作成するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者一人ひとりの状況について細かく記載した「お便り」を家族へ送付している。また、入居者の希望を聞き、日程を調整して買い物へ出かける等の外出支援をしたり、盆・正月等に一時帰宅の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には歯科医が週1回、内科医が2週間に1回往診する等の医療支援体制がとられている。利用者・家族が希望する「かかりつけ医」への受診は可能であるが、その場合は家族が付き添うことが原則となっている。家族が困難な場合には職員が付き添い支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についてのアンケートを家族よりとっているが、事業所としての方針が示された文書は確認できない。		事業所として重度化した場合や終末期についての方針がある程度決まっているようなので、文書化して利用者や家族に説明できるようにすることを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはみられない。個々の利用者の記録は職員がファイルを持ち歩き、記載するように配慮され、個人ファイルは事務所に管理されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴日、外出、買物などは利用者の希望を聞き、即日に行えない場合は日をあらためて希望に沿うように支援が行われている。また、その日の過ごし方については一人ひとりのペースを大切に、無理強いないように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部評価当日は職員と利用者で餃子づくりを行っていた。普段、職員は弁当を持参しているが、行事食等は利用者と職員が同じ物を一緒に食べている。食事の準備・後片付けは利用者の能力に応じて行っている。検食は管理者・運営者が確認をしている。時に利用者の希望のメニューを聞き入れ、ユニット長と食事担当者が決めている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則、夏場は毎日、冬場は2日に1回となっている。入浴時間は10時～16時までの間で、希望に沿う形で入浴を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物の仕分け、生け花、裁縫、編み物など個々の利用者が培ってきたことや能力に応じて役割を提供したり、日々の生活が楽しめるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事等で外出の計画が立てられ、実施されている。また、日常的に事業所周辺の散歩、買い物、植物の水遣りやテラスでの茶話会、日光浴等で戸外で過ごす機会を確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地に面した道路は見通しが悪い上に車もスピードを出している場合が多く、危険回避のため家族に同意を得た上で玄関に鍵をかけている。今までにセンサーの設置等で鍵をかけないための取り組みも行っていたが、音による弊害もあり、鍵を外すまでには至っていない。		職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、何とか鍵を掛けないようにしたいとの前向きな姿勢もうかがえる。ミーティング等でアイデアを出し合い、引き続き鍵を外すための取り組みを期待する。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網は職員の誰もがわかる場所に掲示され、昼夜を想定した火災訓練が年間2回実施されている。職員の聞き取り調査より火災が起こった場合の対応手順等については把握していることが確認できる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、食事量、水分量はおおよそ把握されている。特に水分量に気をつけなければならない利用者は細かくチェックされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、開放感のある窓の外には山や田園風景が広がり、四季の移り変わりを肌で感じることができる。リビングには手作りの大きなカレンダーがあり、生活感が感じられる。居室へと続く廊下には天窓が設けられ、適度な明かりが差し込むよう工夫されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド及びタンスは備えつけであり、それ以外は利用者の馴染みのある物品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。		